

令和3年度 奈良県スポーツ推進審議会第2回定例会 委員発言概要 (R3年8月27日 13時半～15時半 於.コンベンションセンター)

| 委員名 | 主な内容 | キーワード |
|-------|---|--|
| 佐久間会長 | <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの持つ力は人間の成長に関して重要。審議会ではスポーツ推進を最大限に具現化したい。 ・スポーツ博物館をつくるなど、県でレガシー教育を普及させるべき。県立大学はスポーツのレガシー教育を担う責任があるのではないか。 ・選手育成は中、高、大で連携して取り組むべき。 | <ul style="list-style-type: none"> ・県によるレガシー教育の普及 |
| 松下委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツに親しむ、楽しむことが重要。 ・良い施設があるに越したことはないが、そうでなくても室内で行えるフィジカルなeスポーツ(シミュレーションテニスやゴルフなど)も良い。 ・マネジメント、人材育成は非常に重要。(スポーツマネジメントセンターによる、組織マネジメントや経営・人材育成のサポート) ・新しい競技は増えていくのに、人口は減っていく。強化すべき種目を絞り、選択と集中によるヒエラルキー化をする。 ・障害者スポーツもパラリンピックの影響で盛り上がり、強化していくチャンス。 ・オリパラとともにシンボリックな種目を強化していけば良い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツに親しむ、楽しむ ・スポーツマネジメントセンターによる組織・経営人材の育成のサポート ・国体で強化する種目の絞り込み |
| 松永委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・楽しさがスポーツの原点。楽しいと感じてもらうことが重要。 ・取り組みの柱の一つ目(健康増進)の課題部分は、ターゲットをしっかりと絞り、層毎に丁寧に分けた方が効果が上がる。(現在、幼児と子ども以外のカテゴリーがない。) ・層は、幼児、子ども、働き盛り・子育て世代、高齢者(前期/後期、山間部)、障害者(子ども・青少年、成人)などで丁寧に分けると、取り組み例も変わる。 ・取り組みの柱の二つ目(人材育成)の部分は、スポーツを支える人材の育成と、スポーツボランティアの育成に課題が分かれているが、一般の人向けにもう少し分かりやすい課題設定が必要。 ・マネジメント人材・経営人材など、コーディネートする人がいないので改善されない課題もある。本審議会では民間の方が多く登用されており、そこが奈良県らしさなので、計画に反映すると良い。 ・国体に向けたスポーツタレント発掘事業等の方向性について、県の意向を示してほしい。 ・国体では、強化するための環境が整いやすい種目等に絞り込んでいくのが重要。それをサポートする競技団体・学校・大学等との連携も取り組みに含めてほしい。 ・「おもてなし」は国体開催において重要なので、柱に取り込んでほしい。 ・国体で奈良県民が活躍する姿を応援することは格別なことであり、アスリートの育成やスポーツを「する・見る・ささえる」など、スポーツ推進にも繋がる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの原点は楽しさ ・取り組みの柱(健康増進)の課題のターゲットを絞る、層毎に丁寧に分ける。 ・マネジメント人材などコーディネートする人としくみの必要性 ・国体で強化する種目の絞り込み(強化するための環境が整いやすい種目に絞る) ・国体開催時の「おもてなし」を柱に組み込む ・国体を通してスポーツを「する・見る・ささえる」ことを醸成 |
| 福西委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・人材の育成が全て。選手だけでなく、マネジメントも含めて、スキームを作れる人材が必要。 ・奈良県では山間部と都市部で差があると言われるが、吉野スポーツクラブのように施設の稼働率が高く自立しているところや、ポルベニル橿原のように小学生サッカーの競技性が高く頑張っているところもあるなど、幅広い。 ・総合型は自立するのが大事なので、マネジメントも勉強している。県として総合型を育成し、うまく活用すれば広がりが出る。 ・既存の施設の安全性を高めるだけでもスポーツをする環境ができる。 ・高校の体育科をもう少し充実させ、学生の県外への流出を下げる種目を作ることも必要。 ・取り組みの柱の三つ目(スポーツ環境の整備と地域活性化)では、ソフト面も重要。地域の人々(総合型やクラブ含む)が自分たちで大会を運営して盛り上げられる仕組みや、成長できる場所、組織レベルを上げることが必要。 ・国体でも人材の育成(指導者とマネジメントできる人材)が重要。県や地域がサポートし、各競技にそういった人が一人でもできるように。人材育成について勉強できる機会を作るのが大事。 | <ul style="list-style-type: none"> ・人材育成、マネジメント ・総合型地域スポーツクラブの活用 ・高校の体育科の強化による学生の県外流出の防止 ・スポーツ環境の整備、地域活性化ではソフト面も重要。 ・国体でも競技ごとに指導、マネジメントができる人材が付くよう、勉強できる機会をつくる。 |
| 中西委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・国体に向けた10年後の目指す姿とはどういうものか。取り組みの例には幼児スポーツが入っているが、10年後のことを考えるなら、真ん中の柱のところに来るのではないかと思う。 ・スポーツの土台に「遊び」があると考えている。 ・パラリンピックの競技中継がNHKでしか放送されていないのはいかなものかと思う。 ・親子の遊びの中に入るプレイリーダーの存在が重要と考えている。子どもも親も一緒に楽しむことが重要。プレイリーダーが入ることで、施設の中でより楽しく遊んでもらえる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・国体に向けた幼児スポーツの重要性 ・スポーツの土台に遊びがある |
| 朝原委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・競技スポーツとスポーツ環境整備は分けて考えるべき。 ・子どもの時からの遊びも、自分たちで体の動かし方を工夫して生み出したり、小さな社会性を身につけるとい意味で、スポーツの領域に入ると考えている。 ・オリンピックのスケートボードやクライミングでは、選手が競技中に互いに讃え合ったり、一緒にクライミングのルートを相談したりしており、新しいスポーツの考え方だと感じた。 ・子どもたちがゆるく集い、自由に遊びながら体力やコミュニケーション能力、社会性を身につける場所があれば、大人になっても体を動かす慣習に繋がる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・遊びを通した運動能力や社会性の獲得 ・子どもたちがゆるく集い、自由に遊びながら体力やコミュニケーション能力、社会性を身につける場所づくり |
| 千葉委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・委員会で出た意見を、県としてどう行動に移すのか。アイデアを出すだけでなく絞って実行に移さないと、10年はあっという間に経ってしまう。 ・公園などでは禁止事項が多く、どこで体を動かせるのかと思う。また、奈良県でも力ヌーができる場所があるのに情報が入ってこないといった現状がある。 ・皆が親しめる場所、気兼ねなく取り組める環境があれば良い。 ・国体の良さは、地元の人たちと交流できること、地元を巻き込んで交流することでスポーツをしない人も興味を持つきっかけになること。 | <ul style="list-style-type: none"> ・審議会での意見を受けての実行 ・だれもが気軽にスポーツできる場所づくり ・県内でできるスポーツ情報の発信 ・国体開催による地元の人との交流、スポーツに興味を持つきっかけづくり |

| | | |
|------|--|--|
| 川手委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・国体を契機に健康寿命についての意識を盛り上げていく ・疾病(メタボ、糖尿病)対策にはスポーツが大切。 ・奈良国体の開催年は、オリンピック、パラリンピックと同じ年になるかもしれない。村づくり、町づくりとして、いろんな競技の練習場を提供することで、連動して盛り上げられたら。 | <ul style="list-style-type: none"> ・国体を契機とした健康寿命に関する意識の向上 ・疾病対策としてのスポーツの実施 ・村づくり、町づくりと合わせた国体の開催 |
| 星野委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・どう自分の体を意識し、運動してもらうかには、「地域の仕掛け人」が必要。 ・ソーシャルキャピタルに取り組み、そこで認められることがQOLの向上につながる。 ・横のつながりが大事という声が多い中、地域で相互扶助の関係を築くのに、運動・スポーツは有効なツールである。 ・地域活性化にスポーツツーリズムが役立つ。(親が子どもをさっと連れて行ける身近な場所の存在、地域の人と観光が合体しておもてなし) | <ul style="list-style-type: none"> ・運動に導く地域の仕掛け人 ・ソーシャルキャピタルの醸成によるQOLの向上 ・横のつながりの大切さ、スポーツが相互扶助の關係に役立つ ・スポーツツーリズムによる地域活性化 |
| 森山委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツする動機は、同世代のパフォーマンスを見るのが大きい。 ・オリンピックで関心を持った人が、次にスポーツを始めるきっかけとして、どこで何ができるか気軽に確認できる仕組みを作ることが、生涯スポーツにつながる。 ・スポーツ施設が老朽化していたり、規格が足りていない所ばかりだと、地元の人が一流の選手に触れる機会が少なくなる。 ・どの施設をどのように整備するか、具体的な目標が必須。 ・国体開催県として、天皇杯、皇后杯の獲得も大事。 | <ul style="list-style-type: none"> ・同世代のパフォーマンスを見るのがスポーツを始める動機に繋がる ・スポーツ情報が確認できる仕組みづくり ・施設整備の具体的な目標 |
| その他 | <p>福西委員から他の委員への質問:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうしたら暑い時期や寒い時期に、子どもたちとさっと遊びに行こうとなるのか教えてほしい。 <p>中西委員からの回答:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暑い時期、寒い時期に、どうしても外に出かけなければならないということはないと思う。家の中でも親子で楽しむことは難しいことではない。家庭できる遊びを考える機会を持つことも大事。 | |